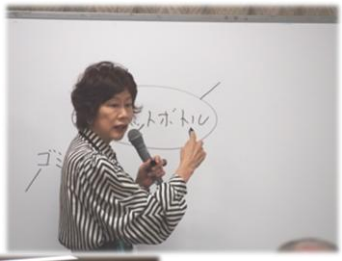
日本語学習ボランティア講座 通信④

平成 28(2016)年 10 月 18 日(火)10:00~12:00

４回目の開催です。今回のテーマは、**おしゃべりで学習者の話す力を伸ばそう~『対話型活動』のやり方~**。
おしゃべりを通した学習、「対話型活動」のいいところと、実際に活動を行う時の留意点などをワークも交えてながら、教えて頂きました。



「対話型活動」

おしゃべり → コミュニケーション

「対話型活動」は、学習者とコミュニケーションをとりながら、色々なトピックでおしゃべりをする活動 ＝ 地域日本語教室に合った活動スタイル☆
地域日本語教室は、“出会い”“知り合い”“共に活動を作っていく場”→ヨコの関係(対等な関係)をつくりながら、相互学習を通して、日本語の習得につなげる。

地域日本語教室だからこそできる活動

おしゃべりがうまくできるようになる
⇩
楽しい
地域日本語教室では、一人一人の学習者に寄り添ったトピック、リソースを選んで、おしゃべりができる♪
⇩
“もっとおしゃべりがうまくなりたい！
⇩
日本語を習得する意欲が沸く!!

日本語を習得する環境をつくる

- 関心をもって自分に寄り添ってくれる人がいる
- やさしい日本語で話しかけてくれる人がいる
- わからないことを聞ける人がいる

使うことによって身につくことば

文のルール、言葉をたくさん知る ≠ コミュニケーションができる

コミュニケーションができる

- 社会的言語能力
  ex) 相手によって、場によっての変化
- 語用能力
  ex) 会話がかみ合う
- 言語構造的能力
  ex) 文のルール・言葉をたくさん知る
- ストラテジー能力
  ex) わからない時にどうのりきるか。

使う≠練習する ⇒『真』のコミュニケーションが大切

対話型学習を上手く進めるための留意点

①**やさしい日本語**で話す

②**いろいろな方法**でコミュニケーション

③**傾聴**
★会話の先取りはしない⇒**”待つ”**
★学習者の話す機会を多くつくる
⇒学習者の土俵で話す(話を引き出す)
⇒その上で、上手く言えないかったり、詰まったときに"手助け”をする

④**自己開示**
「相手のことを聞く」には「わたしのこと」も話す

※対話は、同じ量が基本。尋問ではない

試してみよう!!
既にボランティアで関わっている人は、学習者との対話をボイスレコーダーで録音してみよう！
どれぐらいの割合で話をしているかな？

おしゃべりのタネを見つけよう

おしゃべりには**きっかけ**が必要。

⇒普段から集めておこう☆
⇒例えば、身の回りにあるモノが素材だと生活につながった活動ができる。
⇒「教えてあげよう」にならないように！
⇒一緒に話せるトピックを選ぼう

第４回目(10 月 18 日)の参加者ふりかえり

・学習者にとって「自分の事」だと日本語もすんなり入る、というのに納得です。私達が外国語を学ぶ時にも、自分の事を説明するとか、自分の趣味を話すなど応用できると思います。日本語ボランティア講座なのに、自分の普段使っている言葉を考え直したり、会話のきっかけを学んだり、毎回、勉強になります。
・相手の興味、関心があることから、一歩一歩使ってもらうことを手助けしながら楽しくおしゃべりをすることが大切だなと思いました。
・会話の取りかかりとして、身近なテーマを取りあげることが重要であることがわかりました。身近なことがらに関することばであれば、日常生活に密着、反復すｒことから、より身につくと思う。
・ボランティアの人が自分の話に夢中になって、学習者の話を聞かないという話は「あるある」だと思いました。教えるというより、対等な立場で会話できることが必要だと思いました。
・学童のアルバイトでも児童相手に会話の先取りをしてしまうことがあったのを思い出し、身につまされる話でした。相手に「自分の言葉で語らせる」ことが大切なことであると思いました。
・お茶のペットボトルから、いろいろな話が出来ました。やはり、きっかけは大切ですね。少しの準備で楽しく会話ができそうです。そして、待つ事、先々言わないというのは大切ですね。
・非常によかった。
・学習者の方と対話をしながら、楽しみながら会話を広げていくことが、むずかしく感じたが、コミュニケーションを深める相手のことを知って楽しく習得できる手伝いをやっていきたい。
・対話型活動が必要だとは普段の活動からわかってはいたのですが、トピック探しにもっと力を入れないといけないなと思いました。
・~おしゃべりで学習者の話す力を伸ばそう~今日の講座内容は、とても興味深かったです。日本語の授業をふくらませるための多様なアイデアを教えて頂きました。他国の言語を学ぶのに生かせるアイデアもありました。ありがとうございました。
・自分の話をするのが苦手で人の話を聞いているだけの時間を過ごすことが多いので、もっと対話活動能力を身に付ける訓練をしなくてはと感じました。
・「上手な聞き役になる」とても大切な、でもついつい忘れがちな事ですね。教えてあげよ！もっと日本語上手になってほしい！といった思いから、先取りしてしまいがちですが、待つこと大切にしたいです。そしてお互いに理解を深め合うことが何より楽しみです。
・対話型活動は、日本語ボランティア活動だけではなく、普段の日本人同士の会話でも大事だと思いました。良いコミュニケーション→良い人間関係ですね。
・自分も「日本語ボランティア」ができるだろうかと少しずつ想像しながら聞いています。人間関係のむずかしさや性格のむずかしい人など、うまくできないこともあると思います。失敗例やアドバイスなど、具体的に聞かせていただけたらいいです。
・学習者の生活に関係があることや、心に残るようなテーマにすると、やる気も継続し、充実した時間がすごせることが分かりました。
・今日、聞いたお話しで、外国の方が安心して集える場所作りができればいいなと思いました。
・非常に参考になりました。
・内容に満ちた今日の勉強でした。まず、日本語を知ること（しゃっくり、やけと…）。日本人同士でのお話のむずかしさを知りました。知らないことを知ることで出発します。
・かまえてしまうと会話って無理だと感じた。出来たら幼い心でいくと会話っていうか、「これは~」「何~」とか色々話が広がると思いました。
・相手の話を引き出す…(自分の言いたい事を待って)。学習者の間違い日本語、チェックし、1 ポイント、2 ポイント(最小限に)最後に伝える。
・言葉を上達させるのには、練習するのと、使うこととは違う。100 回の練習より、「真」のコミュニケーション、対話型活動の重要性をあらためて実感しました。対話のネタの見つけ方を学習しました。本当にいろいろ気づかないところ、新しい学びができました。ありがとうございました。
・学習者の文化、習慣を知る必要性(相手を知る)。ボランティアとして必要なことは、極めて多いこと。又、お互いのコミュニケーションをとりあえる関係作りも重要。
・頭が固いと１つのトピックから会話を広げること、さらにそれに関する知識も必要となると日々勉強です。日頃から毎日の生活にもっと注意をむけるべきだと感じた。
・日本語の学習には、話す力を伸ばすことも必要で、その方法として「対話型活動」が良いとのこと。その方法について、いろいろな方法があることを、例題をまじえながら、説明してもらい、大変勉強になった。
・学習者にいかに沢山話してもらえるか、それがボランティアの腕の見せどころだと感じました。
・「対話型活動」のポイントがよく分かりました。１つの素材からどんどん会話を広げていくのは、その人の人間性というか、引き出しの多さがためされる感じがしました。日々、アンテナを広げておくのが、大切だと思いました。今日もあっという間の 2 時間でした。ありがとうございました。

「コミュニケーションができるためには、様々な要素があって…」といったお話をきくと、どんな場面にも活かせる学習に思えました。
学習者、ボランティア共に、相手の方とお話がしたいという気持ちが、とても大事に感じました。
ボランティアとして関わる上では、おしゃべりから学習につなげる”ここ”というポイント見つけるタイミングみたいなものがある気がしますが、まずは、おしゃべりできる関係づくりが生活にいかせる日本語学習には必要に思いました。(担当 K)